

姫路市商工会管内地域経済動向調査報告

(2026 年 3 月値・要約版)

本調査は、姫路市商工会管内が、兵庫県及び全国と比較してどのような特徴があるのか等を分析しており、姫路市商工会HPで公開している。

経営状況の分析や事業計画策定に活用することを目的に広く管内事業者等に周知するとともに、経営指導員等が巡回指導を行う際の参考資料とする。

※本調査報告内に表記される「姫路市」とは原則「姫路市商工会管内(夢前町、安富町、香寺町、家島町)」を指す

(出展:小規模景気動向調査、兵庫県中小企業景況調査、姫路市商工会景況調査、他)

<用語説明> DI 値＝「好転」企業割合から「悪化」企業割合を差し引いた値を示す

例. 調査事業所数 10、「好転」事業所数 2、「変化なし」事業者数 4、「悪化」事業所数 4 の場合

好転:20%(2/10)、悪化(4/10):-40% 差引:-20% が DI 値となる

産業全体の景気動向の推移

<概要>

全産業の DI は売上額がマイナス 12.5(前期比 2.3 ポイント低下)、採算はマイナス 24.3(同 0.6 ポイント低下)、資金繰りはマイナス 14.5(同 0.9 ポイント低下)となり、前期に引き続き主要3DI 全てが前回より悪化した。いずれも低下幅は緩やかであり、特に採算と資金繰りは 1 ポイントに満たない低下幅であった。

今期の主要3DI を 1 年前の同時期と比較すると、売上額は 4.3 ポイント、採算は 6.6 ポイント、資金繰りは 3.8 ポイントといずれも上回って推移していることがわかる。

当期の業況を製造業、建設業、小売業、サービス業の 4 分野でみると、製造業と小売業の一部では DI には改善がみられた一方で、建設業とサービス業は前回から悪化という分野別に異なる結果となった。

経営上の問題点としては、引き続き材料価格や仕入れ単価を 1 番の問題としてあげる経営者が全体の 3 割程度を占めている。このうち、製造業「原材料価格の上昇」、建設業「材料価格の上昇」は前回より指摘する割合が増加したのに対し、非製造業の小売業「仕入単価の上昇」とサービス業「材料等仕入単価の上昇」はやや減少したが、代わりに「需要の停滞」を指摘する割合が増加しているのが特徴的である。

今回の調査結果では、中小企業全体の景況が依然として不安定な状況にあることを示している。最新の日銀短観(2026 年 3 月)の調査結果をみると、中小企業の業況判断が「最近」については製造業が横ばい、非製造業はわずかに悪化程度だったが、「先行き」については製造業、非製造業ともに悪化した。海外景気の見通し、人手不足や物価の動向など、今後の景況に影響を与える内外経済の動向には引き続き注意を要する。

<地域別>

【全国】

2026 年 1-3 月期の全産業の業況判断 DI は、▲21.2(前月差 5.3pt 減)となり、大幅に悪化した。

製造業の業況判断 DI は、▲23.2(前月差 5.6pt 減)となり、前月から悪化した。

建設業の業況判断 DI は、▲22.9(前月差 13.3pt 減)となり、前月から大幅に悪化した。

商業の業況判断 DI は、▲23.4(前月差 2.1pt 減)となり、前月からわずかに悪化した。

サービス業の業況判断 DI は、▲15.4(前月差なし)となり、前月から変化は無かった。

産業全体において、売上額 DI がわずかに低下、資金繰り DI は小幅に低下、採算・業績 DI は大幅に低下した。中東情勢の影響が全産業に広がり、原材料・エネルギーをはじめとするコストの増加が収益を圧迫している。

【兵庫県】

企業の業況判断は、足もとでは改善しているが、先行きは慎重な見方となっている。

個人消費は、物価上昇の影響を受けつつも、緩やかに回復している。

輸出は、横ばい圏内の動きとなっている。設備投資は増加計画にある。

生産は、横ばい圏内で推移している。

雇用・所得環境は、緩やかに改善している。

倒産件数は、おおむね横ばいとなっている。

【姫路市商工会管内】

姫路市の業況は、▲28.6 で、全国 DI(▲21.2)、兵庫県 DI(▲22.1)と比較すると最も低い。

売上高は、▲22.4 で、全国DI(4.3)、兵庫県DI(▲13.5)と比較すると最も低い。

採算状況は、▲40.8 で、全国DI(▲23.7)、兵庫県DI(▲25.2)と比較すると、最も低い。

資金繰りは、▲38.8 で全国 DI(▲19.8)・兵庫県 DI(▲14.0)と比較すると、最も低い。

姫路市商工会独自調査における代表的なコメントを以下に記す。

(サービス業)

・生活用品等、各種値上げの影響により美容関係は後回しにされる傾向があるため、メディア等で値上げ報道があると、それを受け客足が減少する。(美容室)

・高齢化および人口減少もある中、コロナ禍以降、客数が戻ってない。(施術業)

(商業 小売、卸売等)

・ホルムズ海峡閉鎖の関係により、価格が高騰している。(2週間で5円上昇)仕入は組合で行うが、安定した仕入が出来るのかも不安。(ガソリンスタンド)

・4月の値上げが、マヨネーズ・ドレッシング・食用油などに集中する見込みのため行き先が不安(飲食店)

・物価上昇に伴う価格転嫁も厳しく、利益が上がらないのでストックを置く余裕がない。(小売店、他多数)

(建設業)

・燃料価格の高騰が特に、資金繰りをひっ迫する原因となっている。(建設業)

・4月の値上げにより、シンナーや断熱材の価格が大幅に高騰し、10年間で3倍の価格となった。それにより、ますます厳しい状況となる見込みである。(建築業)

(製造業)

・海苔業者の業況が良い為、エンジンの積換え等、船の改修工事の依頼が増加した。(造船所)

・送料込みだった仕入れ値が、配送費の高騰により別途送料が必要になった。他、工場で使う油の高騰が止まらず、資金繰りをひっ迫する原因となっている。(製造業、多数事業所)

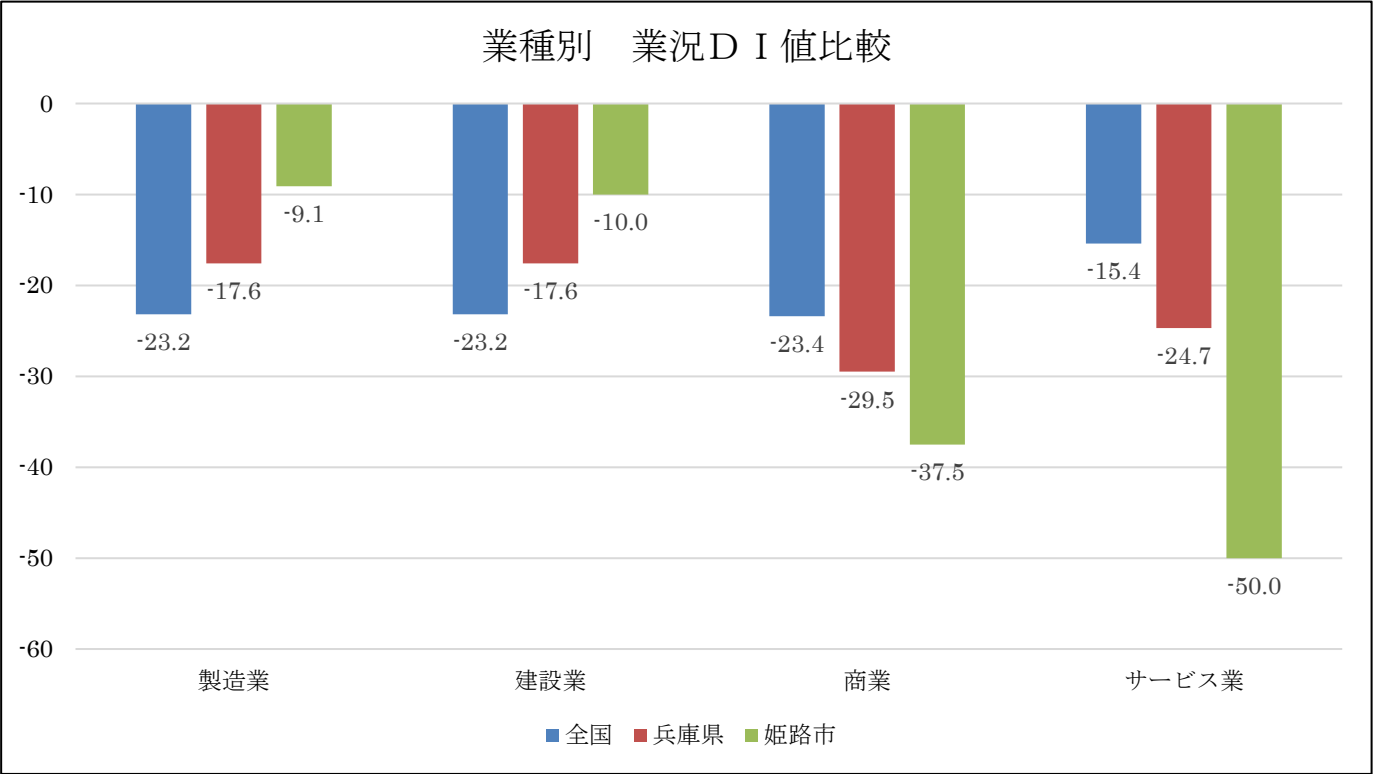
<業種別業況>

産業全体の景況は、売上額 DI がわずかに低下、資金繰り DI は小幅に低下、採算・業績 DI は大幅に低下した。中東情勢の影響が全産業に広がり、コストの増加が収益を圧迫している。また、事業者の中には、価格転嫁が十分に進まないことや需要の弱さを指摘する声も多数寄せられた。

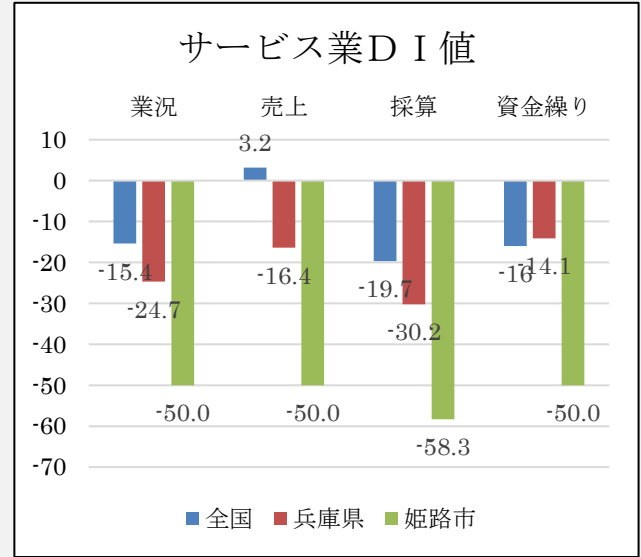
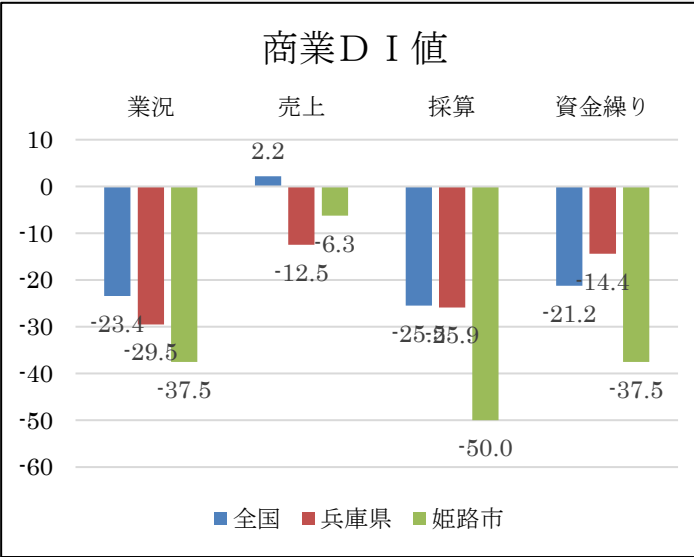
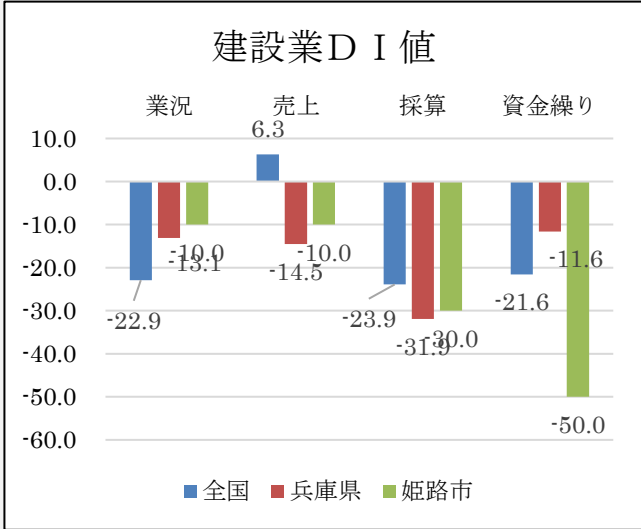
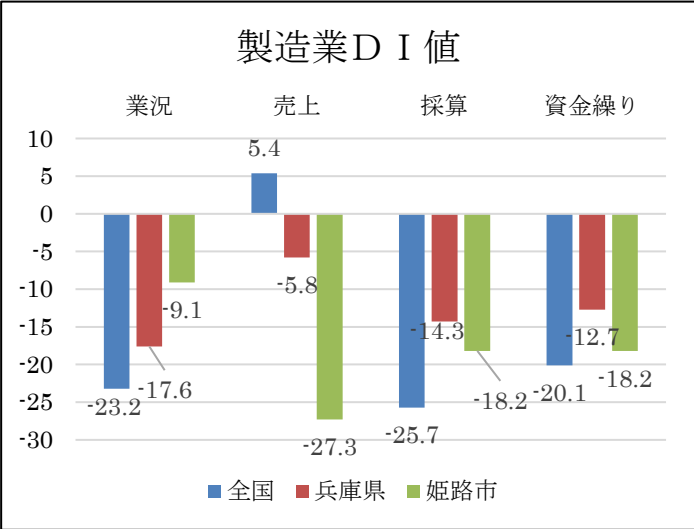
<総括コメント>

国内景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。行き先については、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されるものの、中東情勢の影響を注視する必要がある。また、金融資本市場の変動の影響や米国の通商政策をめぐる動向などに注意する必要がある。

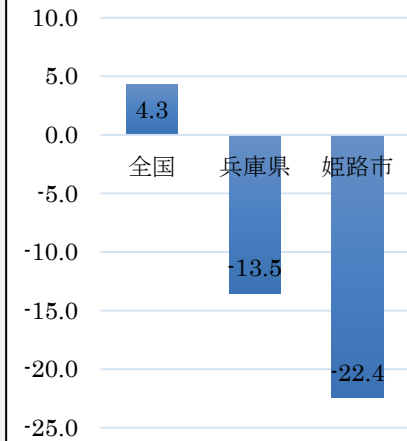
業種別 DI 比較グラフ



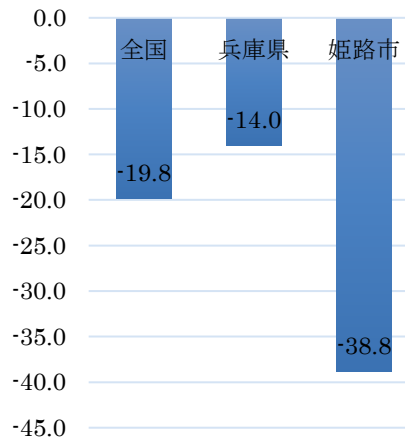
全業種 DI 比較



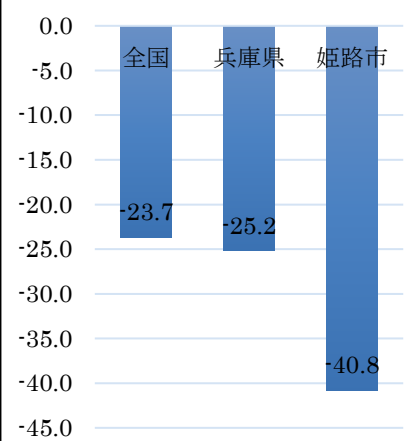
売上D I 値



資金繰りD I 値



採算D I 値



管内の雇用情勢

〈用語説明〉有効求人倍率 = 求人数 ÷ 求職者数 例. 求人案件が 20 件 求人応募者 10 人 なら 2.0 倍

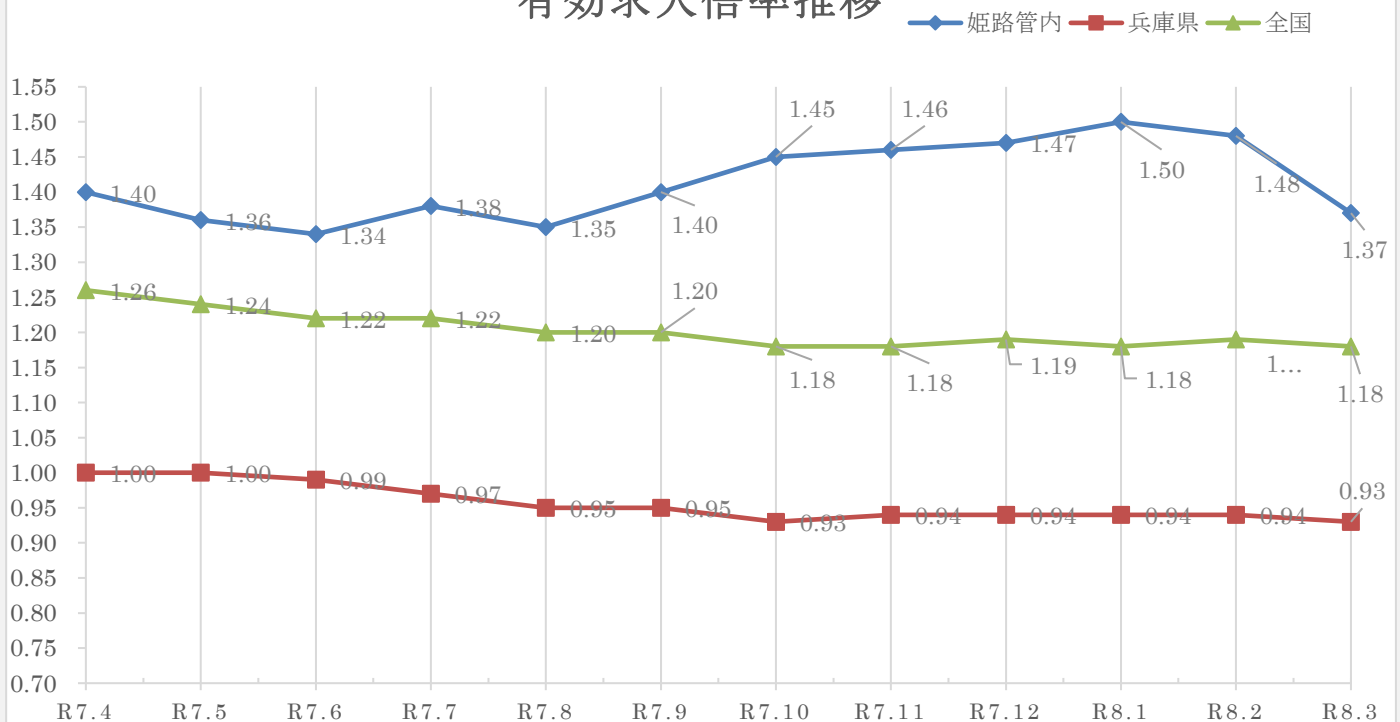
令和 8 年 3 月期の有効求人倍率は、全国 1.18 倍、兵庫県 0.93 倍、姫路管内 1.37 倍となっている。

令和 7 年 4 月から 1 年間の推移を見ると、全国と兵庫県においてはほぼ横ばい傾向である。

姫路市は、1.4 倍台から 1.3 倍台程度で推移しながら横ばい傾向であるが、全国・兵庫県と比較しても高い求人倍率を維持している。

兵庫労働局は、県内の雇用情勢判断を据え置き、「求職が求人を上回り、持ち直しの動きが弱まっている」との見方を 7 カ月連続で示した。同時に、「物価上昇等が雇用に与える影響に引き続き注意する必要がある」との指摘も維持した。

有効求人倍率推移



▲全国・兵庫県・姫路市(ハローワーク姫路管内)直近 1 年間の有効求人倍率推移比較